

BC 州政府リドレス交渉と和解

大木 崇

2026 年 8 月 21 日

ブリティッシュ・コロンビア（BC）州政府に対するリドレス（歴史的被害に対する補償・是正）運動は、2012 年に行われた BC 州政府の公式謝罪に対する日系人コミュニティの不満から生まれました。2012 年、日系カナダ人として初めて BC 州議会議員に選出されたナオミ・ヤマモト（Naomi Yamamoto）氏の主導により、州議会で謝罪動議が可決されました。しかし、可決された決議文は遺憾の意を表明したのみで、日系カナダ人コミュニティの破壊において州政府が担った積極的な役割を認めず、財政的・実質的な補償（リドレス）も一切伴わず、全カナダ日系人協会（NAJC）への事前の協議なしに起草されたものでした。

これを受けて、NAJC はこの歴史的不正義に対処するため独自に行動を起こすことを決意しました。

2018 年 4 月、NAJC はジョン・ホーガン（John Horgan）BC 州首相に提案書を提出しました。2019 年 3 月に合意文書が締結され、BC 州政府からの 3 万ドルの小規模助成金を受けて、NAJC はマリカ・オマツ（Maryka Omatsu）氏とアート・ミキ（Art Miki）氏を共同議長とする「BC リドレス運営委員会」を結成し、全国規模のコミュニティ協議を実施しました。2019 年を通じて、同委員会は全国で広範な意見交換会を開催し、コミュニティがリドレスに期待する内容についての合意を形成しました。2019 年 11 月 15 日、NAJC は画期的な報告書『BC 州における日系カナダ人に対する歴史的不正義の是正に向けた提言（Recommendations for Redressing Historical Wrongs Against Japanese Canadians in BC）』を、リサ・ベア（Lisa Beare）観光・芸術・文化大臣に正式に手渡しました。15 都市・644 名の寄稿者の声を反映したこの報告書が、その後のリドレス交渉の基盤となりました。

全カナダ日系人協会（NAJC）が求めたもの

NAJC の交渉は、6 つのレガシー（日系歴史・文化遺産）の柱（高齢者ヘルス&ウェルネス、教育、歴史遺産保存、コミュニティ&文化、モニュメント、反人種差別）からなる包括的な枠組みを中心に構築されました。主な要求内容は以下の通りです。

- **包括的な事実承認（Comprehensive Acknowledgement）**：1942年から1949年の間に2万2,000人の日系カナダ人に対して行われた強制立ち退き、強制収容、財産没収、および強制追放において、BC州政府が主導的な役割を果たしたことに対する公式かつ意義ある承認。
- **高齢者ヘルス&ウェルネス支援（Seniors' Health & Wellness Support）**：高齢化が進む生存者に対する迅速かつ強力な保健医療サービス。これには、個人の医療ニーズ（移動補助具、在宅ケア、医療機器など）に対する直接的な資金提供が含まれます。また、複合ケア施設（3,600万ドル）、統合型手頃な住宅および保育施設（1,500万ドル）、ならびに未充足の医療・社会的ニーズを満たすためのアウトリーチセンターの設置も求められました。
- **教育改革（Education Reform）**：戦時中の強制立ち退きと収容を必修かつ独立した単元とするBC州の学校カリキュラム（特に社会科5年生および10年生）の改訂、ならびに教材開発資金として24万5,000ドルの拠出要請。
- **歴史遺産（ヘリテージ）の保存（Heritage Preservation）**：日系カナダ人の歴史が意図的に抹殺されてきたことに対抗するための、BC州全域における地域に根ざした歴史遺産修復プロジェクトへの資金提供。
- **モニュメント（Monument）**：収容時代に故郷を追われた家族を恒久的に顕彰するための、ビクトリアにおけるモニュメント（記念碑）の建立。
- **反人種差別アクション（Anti-Racism Actions）**：このような不公正が二度と繰り返されないようにするための、独立し、恒久的で十分な資金を備えた反人種差別機関の設立。

BC州リドレスはどのように和解に至ったか

2020年3月から2021年9月にかけて、プロジェクトディレクターのスザンヌ・タバタ（Susanne Tabata）氏、ロレイン・オイカワ（Lorene Oikawa）氏、ポール・カリヤ（Paul Kariya）氏が率いるNAJC BCリドレス交渉委員会は、州政府の各省庁スタッフと会談を重ね、提案の具体化を進めました。

このプロセスへのコミットメントを示すため、BC州政府は2021年3月31日、高齢化した日系カナダ人生存者の当面のニーズを満たし包括的なニーズ調査を実施するため、初期助成金として200万ドルのヘルス&ウェルネス基金を確保しました。2021年9月22日、BCリドレス交渉委員会は最終提案パッケージ『日系カナダ人に対する歴史的不正義を是正するためのレガシー構想（Legacy Initiatives to Redress Historical Wrongs Against Japanese Canadians）』をジョン・ホーガン州首相に提出しました。

この集中的なプロセスは 2022 年 5 月 21 日に結実し、ホーガン州首相はブリティッシュ・コロンビア州から 1 億ドル（約 100 億円超）のリドレス拠出を行うという歴史的な公式発表を行いました。発表はスティーブストン武道センターにおいて、日系カナダ人の長老やコミュニティの立ち会いのもとで行われ、全国各地のライブストリーミング会場からも多くの人々が参加しました。この和解は、1942 年から 1949 年にかけて強制退去・財産剥奪に遭った 2 万 2,000 人の日系カナダ人に与えられた社会的、経済的、心理的な甚大な被害に対する、州政府による公式な事実承認となりました。

日系カナディアン・レガシーズ協会 (JCLS) の創設

厳格な説明責任、透明性のある資金管理、そして諸構想の専門的な実施を確保するため、NAJC 全国執行理事会および全国評議会は、BC 州を拠点とする独立した監督理事会の設立を承認しました。2022 年 6 月 29 日、日系カナディアン・レガシーズ協会 (Japanese Canadian Legacies Society: JCLS) が正式に法人化されました。

NAJC BC リドレスプロジェクトからの事業を引き継ぐため、スザンヌ・タバタ氏が CEO に任命されました。また、資金提供インフラを管理するため、以下の献身的な創設理事らが任命されました。

- フレッド・ヤダ (Fred Yada)
- ブライアン・ツジ (Brian Tsuji)
- ラリー・オカダ (Larry Okada)
- カレン・ニシ (Karen Nishi)
- ポール・カリヤ (Paul Kariya)
- レス・コジマ (Les Kojima / NAJC 会長)

JCLS の定款には、1 億ドルのレガシー枠組みを誠実に履行し、BC 州政府とコミュニティの双方に対して四半期ごとに報告を行うという使命が定められています。

BC 州リドレス和解の諸プログラム

1 億ドルの和解金は、身体的、社会的、教育的、文化的な回復を目的として設計された 6 つの重要なレガシーの柱に配分されました。

1. 高齢者ヘルス&ウェルネス（最優先事項）

和解における最優先事項として、合計 3,000 万ドルが高齢者ヘルス&ウェルネスに配分されました。

- **個人向け直接助成金（Direct Individual Grants）**：この配分額のうち 2,800 万ドルは、自己負担医療費、移動機器、専門的な高齢者ケアを支援するため、現存する生存者に対する直接のウェルネス給付金として特に割り当てられました。
- **地域グループ・プログラミング（Regional Group Programming）**：コミュニティ主導の高齢者アウトリーチ、配食サービス（ミールズ・オン・ウィールズ）、ヘルスケア・ナビゲーション、レクリエーション・ウェルネス活動の支援。
- **世代間ウェルネス助成金（Intergenerational Wellness Grants）**：強制離散による長期的かつ世代間に受け継がれたトラウマに対処するため、日系カナダ人家族が多世代プロジェクトを企画するための資金提供。

2. 教育

カナダの歴史におけるこの暗黒時代が教室で恒久的に教えられるよう、大規模な教育的推進に資金が拠出されました。

- **必修カリキュラムの更新（Mandatory Curriculum Updates）**：強制収容、財産没収、追放を独立した必修科目とするための BC 州社会科カリキュラム（特に第 5 学年および第 10 学年）の改訂。
- **デジタル教育ハブ（Digital Educational Hub）**：オンラインリソース
『JapaneseCanadianHistory.com』の開発および公開。このサイトでは、教員向け自習型研修コース、教室用教材、インタラクティブ単元が提供されています。
- **授業パッケージ（Lesson Packages）**：アンドレア・フィルポット（Andrea Philpott）氏による高校向け授業単元『Patterns of Injustice（不正義のパターン）』など、既成の教育リソースへの資金提供。

3. 歴史遺産（ヘリテージ）の保存

戦後、BC 州全域で意図的に行われた日系カナダ人の歴史抹殺に対抗するため、地域に根ざした復元プロジェクトが設立されました。

- **史跡基金（Historic Sites Fund）**：BC 州全域の少なくとも 36 箇所の史跡において、記念標識、墓地の改修、解説スペースの設置に資金が提供されました。
- **主要博物館とのパートナーシップ（Major Museum Partnerships）**：サブ協定として、ニューデンバーの日系強制収容記念センター（NIMC）の構造修復と職員雇用の持続可能性のために 100 万ドル、バーナビーの日系国立博物館・文化センター（NNMCC）によるオンラインデジタルデータ

ベースハブ（nikkeimuseum.org）および統合ヘリテージポータル構築に 350 万ドルが拠出されました。

4. モニュメント（記念碑）

かつて多くの家族が追放された発端の地であるビクトリアに、大規模なランドマークが建設されました。

- 中心となるのは、長さ 300 フィート（約 91 メートル）の 100 枚の花崗岩パネルで構成された花崗岩の壁です。
- このモニュメントには、強制退去させられた日系カナダ人の名前が刻まれ、1942 年以前に彼らが生活し働いていた BC 州の 200 の先祖伝来のコミュニティと直接結びつけられています。

5. コミュニティ & カルチャー

数十年におよぶ強制離散ののち、コミュニティの社会的・物理的インフラを再建するための取り組みです。

- **資本インフラ助成金（Capital Infrastructure Grants）**：エドモントン・キッチン改修プロジェクトやナナイモ日系レガシー公演・集会スペースなど、コミュニティ主導の集会施設への直接助成。
- **文化保存プロジェクト（Cultural Preservation Projects）**：全米規模の芸術シンポジウム、家族の再会（リユニオン）、口述歴史（オーラルヒストリー）、コミュニティデータベースへの資金提供。

6. 反人種差別

日系カナダ人の歴史的経験を活用し、現代の構造的な反人種差別への取り組みを支援します。

- 「国家の安全保障」を口実にして人権を停止することの危険性についての公の理解を促進すること。
- ある集団を「他者化（アザリング）」することと、その結果としての市民的自由の完全な剥奪との関連性を明らかにするリソースへの資金提供。

プログラムはどのように実施されたか

JCLS は、専門的な下部組織、正式なサブ協定、およびコミュニティ主導の助成金申請サイクルを活用した、構造化された実施モデルを構築しました。

- **高齢者ヘルス事業（JCSHWFS）**：JCLS は高齢者ケアの任務を遂行するため、日系カナディアン生存者ヘルス & ウェルネス基金協会（JCSHWFS）という専門部門を設立しました。キャシー・マキハラ（Cathy Makihara）会長、デビッド・イワアサ（David Iwaasa）副会長、ケルビン・ヒゴ

(Kelvin Higo) 幹事、および全国代表理事会が率いるこのチームは、地域密着型のアウトリーチネットワークを構築しました。彼らは 5,000 人以上の存命の生存者を特定・確認し、助成金を支給することに成功しました。

- **コミュニティ基金マネージャー制度**：コミュニティ主導の助成金について、JCLS は申請ガイドラインを監督する専任マネージャーを任命しました。このプログラムは、カテゴリー1（家族の共有と癒やし）、カテゴリー2（高齢者世代間グループウェルネス）、カテゴリー3（インフラ／資本設備）に分かれています。
- **地域密着型サブ協定**：すべてのプロジェクトを一元管理するのではなく、JCLS は地元の歴史協会、地方自治体、先住民族の諸部族と直接提携しました。注目すべき提携先には、タシュメ歴史協会（Tashme Historical Society）、ポートエドワード歴史協会、ガリアーノクラブ、バンクーバー日系人合同教会・日系語学校（VJLS-JH）などがあります。
- **教育アウトリーチ**：2025 年 10 月、JCLS は BC 州教員司書協会や MyPITA 秋季大会などの主要な BC 州教員会議において『JapaneseCanadianHistory.com』プラットフォームを直接発表し、アドバイザー教員を活用して同僚教員への直接研修を実施しました。

BC 州リドレス和解の現在および将来の影響

このリドレス和解は日系カナダ人コミュニティを活発に変革し、深遠な文化・歴史のルネサンス（復興）を引き起こしています。

- **生存者への実質的なケアと尊厳**：直接的な医療・福祉資金は、高齢化する長老たちに重要で実質的な安心感を提供し、彼らが快適に余生を送ることを可能にしています。金銭的援助にとどまらず、生存者とその家族は、この助成金がこれまで隠されてきたトラウマや歴史的苦難をついに認める極めて感動的な意思表示であると述べています。
- **世代間トラウマの癒やし**：「家族の共有」プログラムは 241 の多世代プロジェクトに資金を提供しました。これはコミュニティ全体に大きな「波及効果」をもたらしています。長年沈黙を守ってきた家族が、今では自伝を執筆し、写真アルバムを編纂し、収容所巡礼へ共に旅立っています。このプロセスは、戦後の強制離散によって分断された文化的アイデンティティを三世や四世が取り戻す助けとなっています。
- **所属の地理の奪還**：メイプルリッジのハーニー農会施設やノースパシフィック缶詰工場の 3 軒長屋など、29 箇所以上の戦前の歴史遺産を修復することで、JCLS は「見えないものを見える化」して

います。この地域に根ざした活動は、日系カナダ人の歴史を BC 州の物理的景観に恒久的に再定着させています。

- **記憶（追憶）の恒久的遺産：**2026 年 10 月に正式除幕式が予定されているビクトリアの日系カナダ人モニュメントは、能動的な追憶（Tsuoku）の究極の形を表しています。今後何世代にもわたり、巨大な花崗岩のパネルは、財産を奪われたかつての繁栄したコミュニティの恒久的な公的記録として立ち続け、彼らの名が決して風化しないことを保証します。
- **広範な公的認知と反人種差別の歯止め：**BC 州の学校に必修の指導案を導入することで、この和解は未来のカナダ人世代が 1942 年の教訓を確実に理解できるようにします。州の歴史の暗黒の章を、現代社会における構造的な人種差別や不正義のパターンを特定し阻止するための力強い教育ツールへと昇華させています。

生存者給付金（サバイバーズ・グラント）の受給資格対象者

個別のヘルス&ウェルネス支援助成金の受給資格を得るには、プログラムのガイドラインで定められた「生存者（Survivor）」の公式定義を満たす必要がありました。

- **生年月日および血統：**申請者は、1949 年 4 月 1 日以前に生まれた存命の日系人であること。
- **歴史的影響：**1940 年代の BC 州政府の行為によって直接的な影響を受けた個人であること。対象者には以下が含まれます：
 - 強制立ち退きおよび移住を余儀なくされた高齢者
 - 立ち退きは免れたものの、収容時代に BC 州内に居住し続けていた高齢者
 - 家族が BC 州を離れた後に、1949 年 4 月 1 日以前に生まれた高齢者

1949 年 4 月 1 日の意義：この特定の基準日は、日系カナダ人に完全な参政権がようやく認められ、その移動を制限していたすべての州の法的規制が撤廃された歴史的な日を表しています。

- **初期基金（2021～2022 年）：**2021 年から 2022 年にかけて実施された初期の 200 万ドル基金では、受給資格はカナダ国内に居住する生存者に限定されており、国外在住者はその回の資金提供の対象外でした。
- **拡大基金（2,800 万ドル）：**2026 年 3 月に完了した大規模な 2,800 万ドルの JCLS 基金のもとで資格が正式に拡大され、カナダ国内および世界中に住む生存者に対してウェルネス助成金を届けることが可能になりました。

リドレス交渉時の生存者推計

残された生存者の人口規模はリドレス交渉における重要な要素であり、アウトリーチ活動の拡大に伴い推計値が更新されました。

- **オオキ氏による推計（2021 年）**：2021 年の積極的な計画・交渉段階において、タカシ・オオキ（Takashi Ohki）氏は存命の日系カナダ人生存者を約 6,600 人と推計しました。当時、このグループの最年少メンバーは 72 歳でした。
- **初期のアウトリーチのギャップ**：基金事務所がデータベースの構築を開始した当初、カナダ国内に居住すると推定される生存者の 3 分の 1 未満としか連絡が取れていませんでした。
- **最終確認数**：全国的なアウトリーチキャンペーン、タウンホールミーティング、家庭訪問を徹底的に行った結果、日系カナディアン生存者ヘルス&ウェルネス基金協会（JCSHWFS）は、2026 年初頭の基金終了までに、最終的に 5,000 人以上の存命生存者を特定、確認し、助成金を支給しました。

BC 州リドレス和解により資金提供されたプロジェクト一覧

BC 州リドレス和解の「高齢者ヘルス&ウェルネスの柱」（配分額 3,000 万ドル）は、いくつかの主要な直接ケア、コミュニティ主導、世代間支援プログラムに資金を提供しました。

1. 生存者向け直接支援・ケアプログラム

- **個人向けヘルス&ウェルネス支援助成金**：2,800 万ドルの配分のもと日系カナディアン生存者ヘルス&ウェルネス基金協会（JCSHWFS）が管理し、確認された 5,000 人以上の生存者に対して自己負担を直接軽減する給付を行いました。資金は必須の医療関連費用、専用の移動機器、アクセシビリティ補助具、パーソナルケアをカバーしました。
- **日系シニアズ BC ローワーメインランド・プログラム — H.U.G.S.**：200 万ドルの地域配分のもとで策定され、日系シニアズ・ヘルスケア&住宅協会が「Health Urgent Guide Services（H.U.G.S.）」を実施し、BC 州ローワーメインランドの医療支援が行き届いていない虚弱な生存者を支援しました。
- **継続的地域パートナー助成金**：JCSHWF の業務完了に伴い、現地の生存者向け継続プログラムを支援するため、選定された一部の日系カナダ人地域パートナー組織に適度な剰余資金が分配されました（これらの資金の少なくとも 80%は生存者ケアに直接充当されます）。

2. コミュニティ・アウトリーチ&つながり構築プロジェクト（初期 200 万ドル基金）

ウェルネス基金の初期パイロット期間（2021～2022 年）において、運営委員会はコミュニティに焦点を当てた多様なグループの取り組みを評価し、資金を提供しました。

- **50 団体への助成金（Organization Grants）**：医療、宗教、文化、歴史遺産など多岐にわたる団体に授与され、高齢者アウトリーチ、交流イベント、体験談の語り合い、収容所跡地バスツアーなどが開催されました。
- **19 グループへの助成金（Group Grants）**：各地の県人会を含む小規模なコミュニティグループに提供され、地元の生存者向けにカスタマイズされた文化・社会・レクリエーション活動が実施されました。

3. JCLS 世代間ウェルネス・プログラム部門

当初は高齢者ヘルス&ウェルネスの柱のサブセットとして設立されましたが、1940 年代の強制離散による長期的かつ世代間に受け継がれたトラウマに対処するため、日系カナディアン・レガシーズ協会（JCLS）のもとで独立したコミュニティ基金となりました。

- **カテゴリー2：高齢者世代間グループウェルネス助成金**：青少年と高齢者が集う共同活動に対し、日系カナダ人の組織およびグループに最大 1 万ドルの助成金を支給。対象となった活動には、外出困難な高齢者への食事配達、生け花などの伝統工芸、パソコン教室、料理教室、収容所ツアー、計画的なグループ外出などが含まれます。
- **カテゴリー1：家族の共有と癒やし（Family Sharing & Healing）**：多世代間の能動的な対話を促進し家族の歴史を保存するため、1 家族あたり最大 5,000 ドルの助成金を支給。支援対象となったプロジェクトには、家族史の自費出版、アートプロジェクト、デジタルスクラップブック、口述歴史の記録、家系図作成、家族での収容所ツアーなどがあります。
- **カテゴリー3：世代間グループ集会**：収容時代の集団的歴史トラウマに対処するため、専門のモデレーターによる大規模な集会を開催する日系カナダ人組織に最大 4 万ドル（法人化されていないグループには最大 1 万ドル）の助成金を支給。

教育の柱（Pillar）の下での詳細プロジェクト

全国協議においてコミュニティのレガシーを継承するための極めて重要な優先事項として広く認識された「教育の柱」のもと、日系カナダ人の強制収容、財産没収、追放の歴史を世間の注目を集めさせ、州の学校教育に導入するための主要な取り組みに資金が提供されました。

1. 必修カリキュラムの更新

- **BC 州カリキュラムの改訂**：BC 州の学校カリキュラム、特に社会科第 5 学年および第 10 学年の積極的な改訂を支援し、戦時中の日系カナダ人の強制収容、財産没収、強制立ち退きを独立した必修科目として位置づけます。この転換により、将来の生徒たちがこの暗黒の歴史を単なる選択項目や副次的な話題としてではなく、中核的な学びの一部として向き合うことが保証されます。

2. デジタル教育ハブ（JapaneseCanadianHistory.com）の開発

- **K-12 向けオンラインリソースサイト**：生徒および教育者のための中核的デジタルハブとして『JapaneseCanadianHistory.com』を制作・公開。
- **教員開発チーム**：サイトの基礎教材は、タミ・ニコルソン（Tami Nicholson）氏、ジャニス・ブリッジャー（Janis Bridger）氏、ケイトリン・ミナト（Kaitlin Minato）氏、ラリッサ・コンドウ（Larissa Kondo）氏ら BC 州現役の初中等教育教員チームによって 3 年の歳月をかけて作成されました。
- **アドバイザーパネル（諮問委員会）**：ハブの開発は、マサコ・フカワ（Masako Fukawa）氏、ヴィヴィアン・ワカバヤシ・リグネスタッド（Vivian Wakabayashi Rygnestad）氏、グレッグ・ミヤナガ（Greg Miyanaga）氏、コニー・カドタ（Connie Kadota）氏ら退職した熟練教育者による専任諮問委員会によって導かれました。
- **インタラクティブ学習&教員向け自習コース**：教育者および一般市民に日系カナダ人の歴史を紹介するために設計された、3 つのモジュールからなる自習型教員研修コースが含まれています。各モジュールの最後には理解度を確認する短いクイズが用意されています。
- **専門家向けローンチ**：2025 年パウエル街祭でのプレビューの後、2025 年 10 月 24 日、SFU バーナビーで開催された BC 州社会科教員協会大会をはじめとする主要な州教員会議で教育者向けに公式発表されました。
- **コミュニティ向けローンチ**：2025 年 11 月 23 日、日系プレイスにおいてコミュニティ中心の発表イベントが開催され、長年の教育擁護活動家であるアキ・ホリイ博士（Dr. Aki Horii）、マサコ・フカワ氏、メアリー＆トシュ・キタガワ夫妻（Mary & Tosh Kitagawa）の長年にわたるたゆまぬ運動が称えられました。

3. 専門の既成授業パッケージ&教室用リソース

- **「Patterns of Injustice（不正義のパターン）」単元：** アンドレア・フィルポット氏によって作成されたこの高校向け授業パッケージは、全3回のコース単元です。カリキュラムは日系カナダ人の歴史における構造的人種差別のパターンを探求し、それらを現代の問題と結びつけ、今日における不正義に主体的に立ち向かう方法を生徒たちに教えます。この指導案には、東アジア系女性としてカナダ初の裁判官となったマリカ・オマツ判事による『Japanese Canadian Redress: The Toronto Story』の後書きの引用など、著名な歴史的資料が収録されています。
- **ジャニス・ブリッジャー氏の著書／リソース：** 教育者のジャニス・ブリッジャー氏と従姉妹のラ・オキヒロ（Lara Okihiro）氏が共同執筆した印刷版の教育書籍・リソースが開発され、公式発表の場で配布されました。
- **ジェフ・チバ・スターンズ氏とのコラボレーション：** 著名な作家・イラストレーターのジェフ・チバ・スターンズ（Jeff Chiba Stearns）氏が JCLS と提携し、これらの新しい文学的リソースの周知と普及を推進しました。

4. 教員研修、フィールドスクール、ワークショップ

- **教員リソース基金：** 州政府は教員向け教材の開発および管理のために24万5,000ドルを特別配分しました。これには以下が含まれます：
 - 教員が強制収容や財産没収の史跡を直接訪れる「メモリーツアー」フィールドスクール
 - 2026年5月1日のサレー教員協会プロフェッショナル・ディベロップメント・デイで披露されたセッションなど、同僚教員が主導する継続的な専門研修。教室で『Patterns of Injustice』単元を活用する方法を教員に直接トレーニングします。

5. 提案された学術および社会正義フォーラム

- **社会正義のためのアート・ミキ・フォーラム（The Art Miki Forum for Social Justice）：** 教育の柱に関連して、ビクトリア大学グローバル研究センターが本フォーラムの設立を提案しました。1988年の歴史的な連邦リドレス交渉を主導したアート・ミキ氏を称えて名付けられたこのフォーラムは、人権教育のための恒久的なプラットフォームとなることが期待されています（※生存者ケアを最優先するため、ビクトリア大学はこのフォーラムへの政府資金提供が生存者に配分された中核リドレス資金を減額させるものであってはならないと明記しています）。

歴史遺産（ヘリテージ）保存の柱の下での詳細プロジェクト

「歴史遺産保存の柱」は、日系カナダ人の歴史を BC 州の景観に恒久的に再び刻み込むことで、「見えないものが見える化」するように設計されています。JCLS が資金提供する本柱の取り組みは、「主要博物館パートナーシップ（サブ協定）」と「1,000 万ドルの日系カナダ人史跡基金」を通じた地域密着型プロジェクトに大別されます。

1. 主要博物館パートナーシップ（サブ協定）

これらの大規模なサブ協定は、構造の保存、スタッフ雇用の持続可能性、デジタルアクセシビリティを確保するため、日系カナダ人強制収容の歴史を保管する主要機関に直接資金を提供するものです。

- **ニューデンバーの日系強制収容記念センター（NIMC / 100 万ドル）**：構造の修復と維持管理を支援、専任のフルタイム・マネージャーを確保し、来館者向けの教育・文化プログラムを拡充するため、5 年間にわたり年間 20 万ドル（計 100 万ドル）を支援。
- **バーナビーの日系国立博物館・文化センター（NNMCC / 350 万ドル）**：以下の 3 つの主要領域に配分：
 - **コレクション・データベースハブ（150 万ドル）**：オンラインデータベース（nikkeimuseum.org）を高度化し、NNMCC、ニューデンバー（NIMC）、カムループス日系カナダ人博物館・アーカイブズ、トロント日系文化会館の統合デジタルコレクションハブとして機能させる。
 - **ヘリテージ・ポータル（50 万ドル）**：オンラインでの歴史研究、出版物、展示会、戦前史跡情報を連結する統合デジタルリソースハブを構築。
 - **キャパシティ・ビルディング（150 万ドル）**：経験豊かな専門スタッフを確保し、強固な活動遺産を築くため、博物館スタッフの給与体系を改善。

2. 1,000 万ドルの日系カナダ人史跡基金（Japanese Canadian Historic Sites Fund）

本基金は、戦前および収容時代の地方や支援の行き届いていなかったコミュニティに焦点を当て、BC 州全域における標識設置、墓地修復、解説スペースの設置を支援します。

- **史跡&解説スペース**：少なくとも 36 箇所での標識や展示の設置に 400 万ドルを配分。
- **メモリアルガーデン（記念庭園）**：伝統的なメモリアルガーデンの修復と維持に 100 万ドルを配分。
- **パートナーシップ・プロジェクト**：より大規模な協働型歴史遺産イニシアチブに 200 万ドルを配分。

- **維持管理基金（Endowment）**：これらの物理的史跡の長期的な維持管理を確保するために 300 万ドルを充当。

3. 地域別の歴史遺産 & レガシープロジェクト

これらの基金を通じて、JCLS は地方自治体、歴史協会、先住民族のコミュニティと提携し、先祖伝来の地の修復と標識設置を行いました。

北海岸および中央海岸（North Coast & Central Coast）

- **ギンゴルクス（Gingolx）**：ギンゴルクス村政府との提携による墓地改修およびアクセス整備。
- **プリンスルパート（Prince Rupert）**：プリンスルパート市との提携による地域史跡の標識設置。
- **ポートエドワード（ノースパシフィック缶詰工場）**：戦前・戦後の歴史的な日系労働者向け 3 軒長屋の修復、および地元の漁業に関する恒久的な解説展示の開設。
- **オーシャンフォールズ（Ocean Falls）**：地元墓地の改修と解説センターの設置。

バンクーバー島およびガルフ諸島（Vancouver Island & Gulf Islands）

- **キャンベルリバー（Campbell River）**：キャンベルリバー・地区博物館・文書館協会との提携による『バンクーバー島北部における日系カナダ人定住の足跡』展の開催。
- **カンバーランド（Cumberland）**：カンバーランド日系人墓地における看板、解説構造物、墓地修復（破壊された加賀家の墓石の交換を含む）。
- **ユークリュレット（Ucluelet）**：ユークリュレット日系カナダ人歴史パビリオンの建設。
- **ナナイモ（Nanaimo）**：ベバン・パーク（専用の公演・集会・追悼スペースの建設）、マグレガー・パーク（ウォーターフロント解説遊歩道の整備）。
- **シュマエナス（Chemainus）**：公共壁画『シュマエナスの日系カナダ人を記憶し称える』の制作、および博物館展示『誰も戻ってこなかった（None Came Back）』の開催。
- **ガブリオラ島（Gabriola Island）**：『思い出（Omoide）』博物館展示の制作。
- **ガリアーノ島（Galiano Island）**：ブラフス・パーク内にある 20 世紀初頭の歴史的な木炭窯（チャコール・ピット・キルン）の修復と発掘調査。
- **メイン島（Mayne Island）**：地元の日系カナダ人農業史の記録編纂。
- **ソルトスプリング島（Salt Spring Island）**：日系カナダ人メモリアル・ストーリー・プロジェクトの開発。

- **エスクワイモルト（アッパー・ゴージ水路）**：入江沿いで歴史的に起きた日系人の財産剥奪の跡地に恒久的なパブリックアートを設置。

内陸およびクートネー地方（Interior & Kootenays）

- **タシュメ／サンシャインバレー**：タシュメ博物館におけるアーカイブ・リソースセンターの建設、美化、拡張。
- **リロエット（宮崎ハウス）**：宮崎医師の歴史的住宅の修復、生涯と物語の展示開設、収容時代の食とアート展示の構築。
- **サンドン（Sandon）**：歴史展示『過去への窓（Windows to the Past）』の設置。
- **カスロ（ラングハム文化センター）**：博物館の近代化と歴史あるラングハム歴史建造物の修復。
- **クリスティーナ・レイク（Christina Lake）**：歴史あるアルパイン・インへの歴史解説パネルの設置。
- **グリーンウッド（Greenwood）**：日系レガシーパーク内への日本庭園の造園。
- **スローカン・バレー（Slocan Valley）**：メリウェイク解説センタープロジェクトの開発。
- **レベルストーク（Revelstoke）**：レベルストーク博物館・文書館での地元日系史の編纂と展示。

ローワーメインランド（Lower Mainland）

- **ボーエン島（Bowen Island）**：サンディビーチ市営公園における公園整備と解説設備の設置。
- **バンクーバー（Vancouver）**：スタンレーパーク（日系カナダ人戦没者慰霊碑の修復）、新渡戸記念庭園（UBC 庭園インフラおよび文化的特徴の再生）、バンクーバー日系人合同教会・日系語学校（新解説センターの建設と長期的管理のための構造修復）、PNE モミジ・ガーデン（庭園修復と新東屋の建設）、マウンテンビュー墓地（歴史的墓石の修復、景観改善、解説標識設置）。
- **ニューウエストミンスター（New Westminster）**：地域調査の実施と戦前の日系人住民の歴史の出版。
- **サレー／ストロベリーヒル**：初期の日系農家家族を顕彰する記念碑の建立。
- **リッチモンド（スティーブストン）**：スティーブストン・パーク・レガシーウォークの開発と文化センターのアクセシビリティ向上、フレーザー川河口（歴史的木造刺し網漁船クリスタル S 号の修復と造船史展示の開設）、スティーブストン仏教会（伝統的な山門の建立）。

- **ピットメドウズ (Pitt Meadows) :** ピットメドウズ博物館日系カナダ人ホールにおける展示制作と屋外看板の設置。
- **メイプルリッジ (Maple Ridge) :** CEED センター近隣ハウス（戦前のハーニー農会社交会館を解説展示・ポッドキャスト空間に改修）、ジム・ハドギス・パーク（イチゴ日本庭園の植樹・造園）、メイプルリッジ博物館（デジタル歴史アーカイブサイトの構築）。
- **ミッション (Mission) :** センテニアル・パーク内に伝統的な日本茶室風のコミュニティ集会スペースを建設。
- **アボッツフォード (Abbotsford) :** ウエストリッジ・パーク思索空間 (Reflection Space) の建設。

第4の柱：モニュメント（記念碑）

BC 州リドレス和解の「第4の柱：モニュメント」のもとで、故郷を追われた家族の名前と歴史を州の景観に物理的に回復させるための記念碑的プロジェクト——ビクトリアの日系カナダ人モニュメント——が開発・資金提供されました。

1. モニュメントの中心構造：氏名の壁 (The Wall of Names)

- **300 フィートの壁 :** モニュメントの中心となるのは、100 枚の花崗岩パネルで構成された長さ 300 フィート（約 91 メートル）の巨大な湾曲した壁です。
- **素材と彫刻 :** パネルにはケベック州の採石場から調達された最高級花崗岩が使用されています。石材はカナダ東部で彫刻された後、トラックで大陸を横断してビクトリアまで輸送されます。
- **刻まれる 2 万 5,000 人の名前 :** 強制退去させられた約 2 万 2,000 人の日系カナダ人の名前に加え、収容時代（1942～1949 年）に収容所で生まれた 3,000 人以上の子どもの名前が、史上初めて石に刻まれます。
- **先祖の土地ごとの配置 :** 単なるアルファベット順の羅列ではなく、北海岸・中央海岸の漁業集落からフレーザーバレーの農村地帯に至るまで、彼らが追われた先祖伝来の地域ごとにグループ分けされています。この意図的な配置により、子孫の家族は愛する人の名前を見つけ、かつて我が家と呼んだ土地への「象徴的な帰還」を体験することができます。

2. 基礎調査と氏名特定プロジェクト（Disambiguation Project）

- **不当利得景観（Landscapes of Injustice）データの統合（11 万 1,000 ドル）**：追放されたすべての人々が漏れなく正しく記載されるよう、和解金から 11 万 1,000 ドルが拠出され、着工前の厳格な調査プロジェクトが実施されました。
- **氏名の特定と照合**：歴史学者と研究者チームは、ビクトリア大学の『Landscapes of Injustice』プロジェクトがまとめた 1 万 4,500 件のデジタル化された政府事件ファイルから抽出された 2 万 1,460 件の個別の名前を何年もかけて照合・曖昧さ解消（同姓同名の特定作業）を行い、花崗岩の壁に刻むための歴史的に正確な最終マスターリストを完成させました。

3. 戦略的な設置場所と歴史的位置づけ（ビクトリア）

- **州政治の中核**：ビクトリア市内のサウスゲート・ストリートとアカデミー・クローズの間、聖アン・アカデミーの南側に位置する指定公園用地に設置されています。BC 州議事堂、ロスベイ墓地、ビーコンヒル公園からも至近距離にあります。
- **入国の港への帰還**：モニュメントをビクトリアに設置することは、深い歴史的皮肉と大きな意味を持っています。ビクトリアは 1800 年代に初期の日本人移民が最初にカナダの地を踏んだ太平洋の玄関口でした。彼らの追放を決定した州政府の膝元に記念碑を設置することで、コミュニティの歴史が権力者の目に恒久的に留まり続けることになります。

4. モニュメントの設計・建設チーム

本プロジェクトには、日系コミュニティと深い絆を持つ著名な設計・建設チームが結集しました。

- **基本構想設計**：JCLS のコンサルティング建築家である小林ジャック（Jack Kobayashi / Kobayashi Zedda）氏が 2022 年にスザンヌ・タバタ氏と共にモニュメントの初期規模、範囲、予算を策定しました。
- **主任建築設計**：最終設計は、著名な日系カナダ人建築家ブルース・クワバラ（Bruce Kuwabara）氏が創設パートナーを務める、世界的に評価の高いトロントの建築設計事務所 KPMB が手掛けました。
- **ランドスケープアーキテクト**：周囲の公園、小径、日本的な自然要素のデザインは、PFS Studio のランドスケープアーキテクトであるケルティ・ミヨシ・マッキノン（Kelty Miyoshi McKinnon）氏が担当しました。

- **総合建設施工**：重厚な花崗岩パネルの複雑な土木工学と物理的据付を管理するため、Chandos Construction 社が選定されました。

5. 式典、建設マイルストーン、公開スケジュール

- **地鎮祭とシダー・ブラッシング（2025 年秋）**：エスクワイモルト族およびソングヒース族の先住民が主催する親密で伝統的な地鎮式典の後、正式に着工されました。ビクトリアの日系カナダ人生存者や子孫（エスクワイモルト族の長老メアリー・アン・トーマス氏やリドレス運動家のヘンリー・シミズ博士など）が見守る中、神聖なスギの枝によるお祓い（シダー・ブラッシング）が行われました。
- **最初のパネル設置（2026 年 5 月）**：カナダで最初の日本人移民の一人の歴史的な住居跡からすぐ近くの公園東側で、パネルの物理的な設置工事が開始されました。
- **ライブ配信記念式典（2026 年 10 月 3 日・土曜日）**：カナダ全土の高齢の生存者や離散した子孫が共に立ち会えるよう、全国にライブ配信される記念式典でモニュメントの除幕が行われます。
- **一般公開とガイド付きツアー**：公園は 2026 年 10 月 3 日に一般公開されます。JCLS は、訪れる子孫を案内するため、専用予約システムを通じて 2026 年 10 月 4 日、5 日、6 日、7 日に対面形式のガイド付きツアーを企画しています。

第5の柱：コミュニティ&カルチャー

「第5の柱：コミュニティ&カルチャー」のもとで、コミュニティは数十年におよぶ強制離散の後に社会的、物理的、組織的なインフラを再建することを目指しました。これを達成するため、全米日系人協会（NAJCS）は2,000万ドルの「日系カナダ人コミュニティ基金」を要請しました。この基金は、コミュニティ主導プログラミング（400万ドル）、コミュニティインフラ（300万ドル）、大学院レベルの学術奨学金（300万ドル）、職業訓練・技能習得（300万ドル）、芸術支援（300万ドル）、バンクーバーの歴史的コミュニティ空間（100万ドル）の6つの重点分野で構成されました。日系カナディアン・レガシーズ協会（JCLS）が管理・実施し、これらの分野で数多くのプロジェクトが完了しました。

1. 資本インフラ&施設改修プロジェクト

長期的な集会拠点を確保するため、日系団体による施設の改修、修繕、アクセシビリティ向上を支援しました。

- **エドモントン・キッチン改修プロジェクト**：2025年4月13日にグランドオープンを迎えた本プロジェクトは、アーガイル・コミュニティ・リーグ（ACL）の厨房施設を近代化しました。エドモントン日系コミュニティ協会（EJCA）との提携によりオオキ・サナエ（Sanae Ohki）氏の主導で進められ、アルバータ州の活気ある戦後日系コミュニティのためのプロ仕様の料理・交流ハブへと生まれ変わりました。
- **ナナイモ日系レガシースペース**：レガシー・インフラストラクチャー・プロジェクト（LIP）として資金提供され、中バンクーバー島日系カナダ人協会（通称「7ポテト」）によって実施されました。バンクーバー島のコミュニティのために専用の公演・集会・追悼スペースが整備されました。

バンクーバー日系人合同教会・日系語学校（VJLS-JH）：この歴史的コミュニティ拠点に対し、解説センタープロジェクトと建物の修復のための大規模な資金が提供されました。これにより、歴史あるバンクーバーの空間が「2世紀目のレガシー建築管理」へと確実に引き継がれます。

- **スティーブストン・コミュニティ協会施設改善**：フレーザー川河口の景観を通じてスティーブストンの日系カナダ人の歩みを伝えるため、スティーブストン日系文化センターの重要なアクセス改善・バリアフリー化が実施されました。

2. 文化保存・文学・芸術プロジェクト

日系カナダ人のアーティストやコミュニティグループが文化的アイデンティティを取り戻し、自らの歴史を表現することを後押ししました。

- **トロント「芸（Gei）シンポジウム 2025」**：2025年9月19～21日に日系文化会館で開催されたこの画期的な全国シンポジウムには、カナダ全土から日系アーティストが集結しました。ACE委員会が主催しNAJCが後援した本イベントでは、デビッド・フジノ先駆的アーティスト賞の受賞者であるジョイ・コガワ（Joy Kogawa）氏とマツバラ・ナオコ（Naoko Matsubara）氏が称えられ、マーク・サカモト（Mark Sakamoto）氏が基調講演を行いました。
- **マルチメディア公演『Retraced』**：演劇・ダンスアーティストのケイト・カモ・マクヒュー（Kate Kamo McHugh）氏が「芸シンポジウム」で披露したJCLS助成プロジェクト。肖像、記録された身体の動き、ライブパフォーマンスを用いて、戦前の無人の空間を巡る自身の家族の歩みを描き出しました。
- **コミュニティ文学&アート作品**：以下の作品など多数のアート・出版プロジェクトが支援されました：

- 『The Japanese Canadian Book of ABCs』：ハタナカ・ケレン（Kellen Hatanaka）氏とオキ・ミア（Mia Ohki）氏がイラストを手掛け、子どもたちに向けた親しみやすい歴史への入門書として JCLS コミュニティプロジェクト助成金により制作された絵本。
- 『Obaasan's Boots（おばあちゃんの長靴）』：教員のジャニス・ブリッジャー氏と従姉妹のララ・オキヒロ氏が共同執筆した青少年向け歴史書。
- 『Tomey: The Unyielding Spirit of Tomekichi Homma（トメイ：本間留吉の不屈の精神）』：JCLS エデュケーション・ブランドアンバサダーのジェフ・チバ・スターンズ氏が執筆し、アダチ・アリー（Ally Adachi）氏がイラストを担当した書籍。

3. 世代間家族共有 & 癒やし助成金

1940 年代の強制立ち退きによる世代間に受け継がれたトラウマを癒やすため、JCLS は 241 件の多世代プロジェクトに資金を提供しました。これにより、各家族が巡礼を行い、自費出版の手記をまとめ、口述歴史を記録することが可能になりました。

- **家族の巡礼 & 収容所ツアー**：アラン・ヨシキ氏（戦前の家族ゆかりの地への家族巡礼）、エレイン・オイカワ＝バウアー氏（多世代家族での収容所ツアーの企画）、ララ・オキヒロ氏 & スーザン・タサカ氏（戦前・戦中の跡地を巡る家族の癒やしの旅）、アンドリュー・コンノ氏（カスロへの家族収容所ツアー）、エミー・ツムラ氏（戦前・戦中の先祖伝来の地への家族巡礼）。
- **手記・家系図・デジタルアーカイブ**：ポーラ・ニシキワラ氏（多世代にわたる包括的デジタル家族アーカイブの構築）、リンダ・カワモト＝リード氏（家族の物語とオーラルヒストリーをまとめた書籍の編纂）、ジャニス・オオウチ・ビュイック氏（『Landscapes of Injustice』のデータベースを活用した貴重な家族写真と記憶の収集・保存）、エリック・ハタシタ氏（祖母についての私的な自費出版書の執筆）、ニール・キシ氏（正式な家族史調査および写真編纂プロジェクト）、マット・ミヤガワ氏（母が執筆した家族史書籍の出版）。
- **文化的 & 食の継承**：クリス・コイデ氏（料理とレシピの共有を通じて若い世代と家族の歴史を結ぶ「Meal Memories」プロジェクトの設計）、マエムラ・マユミ氏（伝統的な家庭料理レシピ、物語、戦時中の歴史を織り交ぜた料理本の編纂）、カレン・コヤナギ・ガイガー氏（長老からの家族の聞き書きと多世代での食事会の開催）。

第6の柱：反人種差別

「第6の柱：反人種差別」のもとで、コミュニティは日系カナダ人の歴史的経験を活用して現代の構造的な反人種差別への取り組みを支援し、国家主導の将来の不正義に対する歯止めを築くことを目指しました。交渉中、高齢者たちはカナダでこのような人権侵害が二度と起こらないようにするため、リドレスパッケージに強力な反人種差別の要素を盛り込むことを強く訴えました。BC州の反人種差別イニシアチブ担当政務次官ラフナ・シン（Rachna Singh）氏をはじめとする州当局者との協力のもと、以下のプロジェクト、法制度の提案、教育構想が確立されました。

1. 制度的・法整備の取り組み

人権保護の制度化に向けた具体的な提案と事実承認の要求が行われました。

- **独立した反人種差別機関の設立提案：** スザンヌ・タバタ氏、ロレイン・オイカワ氏、ポール・カリヤ氏、ジュディ・ハナザワ（Judy Hanazawa）氏らを含む BC リドレス交渉委員会は、州政府に対し、独立し、恒久的で十分な資金を備えた反人種差別機関の設立を正式に要請しました。この機関は、人権委員会事務所（OHRC）内に設置されるか、BC 州反人種差別法の独立した要素として組み込まれることが提案されました。
- **州政府の加担に対する公式承認：** 委員会は、1942 年から 1949 年にかけての日系カナダ人の強制退去、収容、財産剥奪において BC 州政府が主導的な役割を果たしたことを詳述した、包括的で意義ある承認を求めました。これは、遺憾の意を示すにとどまり州政府の積極的かつ加担的な役割を認めなかった 2012 年の謝罪の不備を正すことを目的としました。

2. 専門カリキュラム&教室リソース

反人種差別の中核的目標は、デジタルプラットフォーム『JapaneseCanadianHistory.com』を通じて学校教育の場や一般社会に直接届けられています。

- **『Patterns of Injustice（不正義のパターン）』高校向け単元：** アンドレア・フィルボット氏が開発した全 3 回の高校向け指導案。生徒が日系カナダ人の歴史における構造的な人種差別のパターンを認識し、それらのパターンが現代社会においてどのように現れているかを特定できるように設計されています。
- **「他者化（アザリング）」と市民的自由の喪失の連鎖：** あるコミュニティを「他者化（部外者や敵性外国人として扱うこと）」することと、そのコミュニティの家、権利、市民的自由の最終的な完全剥奪との間の直接的な歴史的連鎖を明確に示しています。

- **マリカ・オマツ判事の警告：**カリキュラムには、マリカ・オマツ判事による『Japanese Canadian Redress: The Toronto Story』の後書きからの力強い警告が含まれています。この歴史を学ぶことで、国家が容認する人種差別によって無実の市民から生命、財産、尊厳が奪われることをカナダ国民が決して許さないよう願うメッセージが込められています。
- **「国家安全保障」の危険性に関する教訓：**1942年の強制立ち退きは偶然の歴史的「過ち」ではなく、意図的な一連の政府政策であったことを教えることに力が注がれています。政府が基本的人権の全面的な停止を正当化するためにいかに「国家の安全保障」を悪用し得るかを示す教訓として機能しています。

3. 公共教育 & アウトリーチモジュール

- **デジタル反人種差別学習モジュール：**デジタルハブ上の自習型教員コースは一般市民にも公開されており、恐怖、人種差別、無知が政府の政策や世論を左右することを許したときに何が起こり得るかを、すべてのカナダ人に問いかけています。
- **教員主導の研修（Pro-D）ワークショップ：**JCLS 教育ブランドアンバサダーが BC 州全土の教員向けに能力開発ワークショップを実施し、『Patterns of Injustice』の枠組みを用いて構造的な人種差別、歴史的な国家暴力、現代の市民的権利の保護に効果的に取り組む方法を研修しています。

4. 世代間の癒やしとアイデンティティの再獲得支援

- **世代間トラウマの癒やし：**JCLS 世代間ウェルネス部門は、人種差別的排除、羞恥心、強制離散による長期的かつ世代間に受け継がれたトラウマを家族が消化できるよう、241 の多世代プロジェクトに資金を提供しました。
- **「模範的少数派（モデルマイノリティ）」神話への異議申し立て：**JCLS の家族共有プログラムは、多様なコミュニティの声が率直に語られる場を提供しています。参加者は、家族の歴史を知ること、白人カナダ社会の「模範的少数派（モデルマイノリティ）」神話や、「リドレスによってコミュニティは即座に癒やされた」という都合よく美化された政治言説に対して子孫が主体的に反論する力を得ていると語っています。

5. インターセクショナリティと国境・民族を越えた連帯

- **先住民族との連帯：** JCLS は、復興や歴史遺産修復の取り組みが行われている先祖伝来の土地において、現在も続く先住民族（ファーストネーションズ）の闘争に対する深い敬意と連帯の精神をもってリドレス事業を位置づけています。
- **歴史的不正義の連結：** BC 州政府が歴史的に先住民族の構造的な土地剥奪と並行して 170 以上の反アジア系政策を成立させてきた事実を強調することで、本柱は日系カナダ人の経験を白人至上主義に対するより広範な批判へと結びつけ、このような組織的差別がカナダ国内のいかなる集団に対しても二度と繰り返されないよう活動しています。